



水の生まれる郷 南阿蘇村

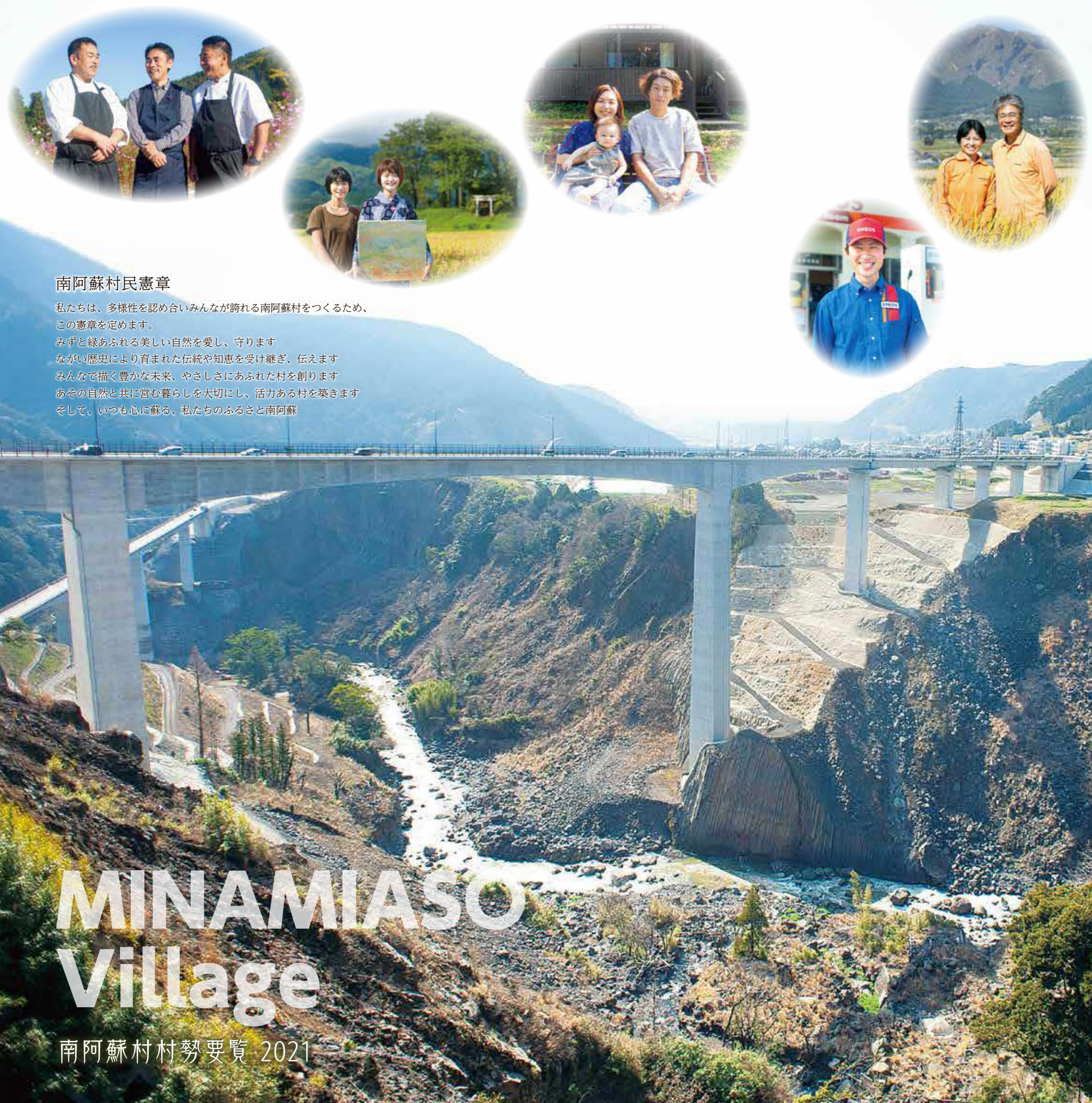
熊本県 阿蘇郡



 熊本県 南阿蘇村

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽1705番地1
TEL (0967) 67-1111 Fax (0967) 67-2073
URL <https://www.vill.minamiaso.lg.jp/>





南阿蘇村民憲章

私たちは、多様性を認め合いみんなが誇れる南阿蘇村をつくるため、この憲章を定めます。

みずと緑あふれる美しい自然を愛し、守ります

ながい歴史により育まれた伝統や知恵を受け継ぎ、伝えます

みんなで描く豊かな未来、やさしさにあふれた村を創ります

あその自然と共に営む暮らしを大切に、活力ある村を築きます

そして、いつも心に蘇る、私たちのふるさと南阿蘇

村長からのメッセージ



南阿蘇村 村長
吉良 清一

南阿蘇村は、阿蘇カルデラの南山麓に位置し、豊かな湧水に恵まれた農業と観光が基幹産業の中山間地の村です。

2016年4月の熊本地震では、これまで経験したことがない甚大な被害を受けました。しかし、現在では2021年3月7日に「新阿蘇大橋」が開通するなど、主要道路がすべて開通したことで多くの観光客の方々が再び南阿蘇村を訪れています。村にとっての良い流れを断ち切らないように、更なる創造的復興を目指していく所存です。

その上で、阿蘇の豊かな自然環境や地域資源を総合的に利活用し「環境のむらづくり」「活力あるむらづくり」「暮らしのむらづくり」を目指すこととしております。

南阿蘇村は村内各所に湧水が点在しております。水は生命の源であり、この豊かな水を次世代に引き継ぐ取り組みによって、ふるさとの復興、活力ある南阿蘇村づくりに邁進してまいりますので、ご支援ご助言賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

MINAMIASO Village

南阿蘇村村勢要覧 2021

誰もが住みたい・住み続けたい 南阿蘇村 の実現

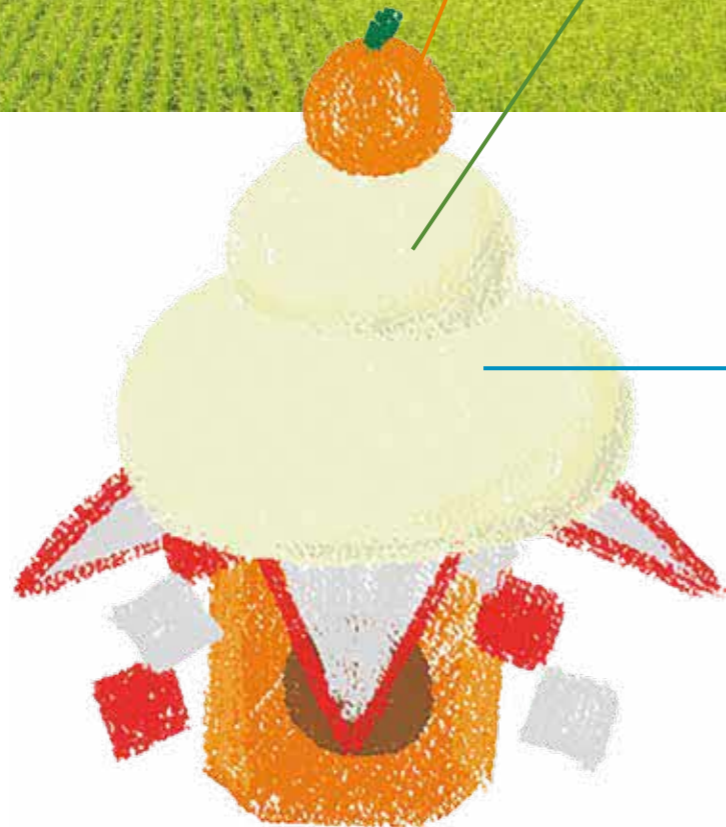


政策は3つのKから

「Kurashi (暮らし)」「Katsuryoku (活力)」「Kankyo (環境)」により形成されています。

恵まれた環境は土台となり産業を後押しし活力を生み、また生まれた活力は村人の豊かな暮らしへと続いていきます。

3つのKは鏡餅のようにどっしりと、ゆるぎなく村を支えているのです。



Kurashi (暮らし)

「大自然の中で子どもがすすく」「お年寄り生き生き」すべての村民が幸せを感じる、そんな「暮らし」を目標とします。震災の教訓を生かし、災害に強い、安心安全な村づくりを進めます。

これから取り組むこと

- コロナ感染症対策と支援の充実
- 公共交通網を整備、見直し《南阿蘇鉄道、ゆるっとバス、乗合タクシー》
- 子育て環境整備《保育、遊び場、医療》
- 教育環境の整備《給食施設、ICT授業、村営塾》
- 福祉活動充実《高齢者学級、シルバー人材センター、各種教室、障がい者支援など》



Katsuryoku (活力)

「活力」なくして村の将来は語れません。環境を整え、それを土台として活力につなげます。恵まれた自然環境を最大限に活かして振興を図り「元気な村」「魅力ある村」「選ばれる村」を創ります。

これから取り組むこと

- 農地保全農業振興《新会社を設立》
- 農産物のブランド化《ふるさと納税向け新商品開発、あか牛&赤ワインセット商品など》
- 観光振興、ビューポイント整備《立野パノラマテラス (大崩落山頂)》
- 女性が安心して活躍できる場の創設
- 小学校跡地などの村有施設利活用《地域コミュニティ、サテライトオフィス、訪問介護施設、農業後継者育成など》
- 上天草市との交流強化《教育、体験、物産》
- 震災遺構を観光資源に《修学旅行や一般視察の受け入れなど》
- 移住定住の促進《ワーケーション、リモートワーク、空家対策など》
- 台湾をはじめとする海外との交流《語学講座の実施、協定等の締結など》

Kankyo (環境)

先人が守り伝えてきた雄大な「景観」、そして村民全てが誇りとする「水」、これらは村の宝であり、守り育み、将来に継承していかなければなりません。

とりわけ水は本村の貴重な財産であり、水の大切さを訴え、保全してまいります。

これから取り組むこと

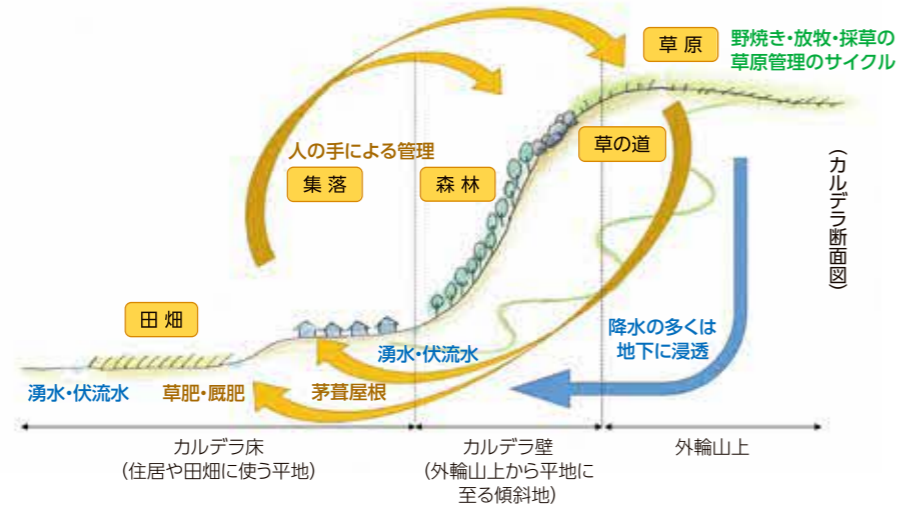
- 地下水保全基金を創設、助成制度を強化《冬季湛水田、田んぼ貯留、広報活動》
- 再生可能エネルギー利活用、自給率向上《小水力、地熱、風力、太陽光、バイオマス》
- 阿蘇の世界文化遺産登録推進《水田保全、草原維持、伝統催事継承》
- 脱炭素社会を追求、日本のモデル地域へ

水を育む「むら」

南阿蘇村では、古来から循環型の農業が営まれてきました。この循環型農業により、現代まで保全されてきた草原や水田は、「世界の地下水都市」と称される熊本市の豊富な地下水を育む要因となっています。

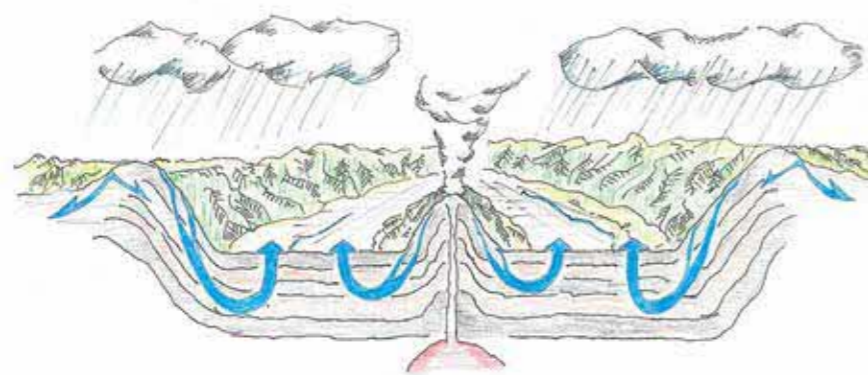
しかし、その熊本市の地下水は年々減少しており、その大きな原因の1つが阿蘇の草原と水田面積の減少であると考えられています。

人類共通の宝である水資源を後世に引き継ぐために、南阿蘇村は野焼きによる草原の維持や、水田への冬季湛水の勧奨など様々な取り組みを行っている水を育む「むら」です。



※カルデラ内の土地利用の一例であり、個々の土地利用は地域により異なる。

南阿蘇が多くの地下水を生み出す理由



地形

阿蘇山の噴火活動によって形成された阿蘇カルデラの地形は、その内部により多くの水を溜めやすい形状になっています。

地層

複数回の噴火活動によって形成された、いくつもの阿蘇の地層はより多くの水を浸透させ、長い年月の間地中に溜めこむとともに、天然のフィルターとなりきれいな地下水を生み出します。

水田

多くの水田は、雨水が川から海に流れることを防ぎ、より多くの雨水を地中に浸透させることができます。また、その優れた湛水能力により、大雨の際は天然のダムとして災害を未然に防ぎます。

草原

野焼きなどにより大切に守られてきた南阿蘇の草原は、管理がなされていない山林やヤブよりも効率的に雨水を地中に浸透させるとともに、その美しい景観は南阿蘇の大切な観光資源です。

環境の「むら」

この自然豊かで美しい村を後世まで残すため、南阿蘇村の人々は地球に優しい暮らしを行っています。環境問題が叫ばれている今、まさに先進地として環境と共生する「むら」と言えます。



自然環境と共生するむら

南阿蘇村では豊かな自然環境の保全とともに、住みよい魅力ある郷土の実現を目指し、野焼きによる草原の維持や有機の土づくり、上下水道整備など様々な環境保全活動に取り組んでいます。

また「南阿蘇村自然環境保全条例」や「南阿蘇村地下水保全に関する条例」により自然環境との調和を図りながら秩序ある資源の活用により地域の産業振興を育む取り組みも行っています。

住民生活環境のインフラを整備するとともに、関連企業や関係機関と連携を図り地熱発電や水力発電などの再生可能エネルギーを促進し、自然環境と共生するむらづくりを目指します。



農業の「むら」

この広大な大地で、自然の恵みを受けて育まれる農産物は、自然の旨味と作る人たちの愛情がギュッとつまっています。四季折々に、美味しい農産物が味わえるむらです。



南阿蘇村の恵み

白川を中心に水田が広がり、のどかな農村風景が魅力の南阿蘇村は、水稻をはじめ、畜産、ミニトマトやアスパラなどの施設園芸が盛んです。昼夜の寒暖差が大きい気候により、自然の旨味がしっかりと詰まった農産物が自慢です。有機農業、環境保全型農業を推奨しており、安心安全な農産物づくりに取り組んでいます。

近年は、ソバの作付面積が増大し、特産品のひとつに数えられるようになりました。

また、畜産業も盛んで、特にあか牛は阿蘇の野山や水田で放牧されており、南阿蘇の風物詩のひとつとなっています。阿蘇のあか牛は肉質が良くヘルシーで全国的にも高い評価を受けています。村内の物産館や飲食店では、地元の新鮮野菜や加工品、あか牛などを楽しむことができ、地産地消の場として賑わっています。この豊かな農業の村を次代に引き継ぐため、新規就農者の育成、有害鳥獣被害対策などに取り組みながら農業者の経営基盤の強化を促進しています。



観光の「むら」

大自然に囲まれた南阿蘇村には、思わず足を運びたい観光スポットが沢山あります。子どもからお年寄りまで誰もが楽しむことができ、都会ではできない体験ができる「むら」です。



南阿蘇村は、大自然を中心にたくさんの観光資源に恵まれています。新阿蘇大橋のたもとにある展望所「ヨ・ミユール」からは長陽大橋、白川第一橋梁（南阿蘇鉄道）を眼下に望むことができ、新たな観光スポットとして注目を集めています。また、熊本地震で落ち込んだ観光客数は回復傾向にあり、南阿蘇村本来の賑わいが戻りつつあります。2017年9月には、アウトドアショップ「mont-bell」と村が協定を結び、アウトドア活動の促進や地域経済の活性化など、包括的に協力をしあい、観光振興に取り組んでいます。





子どもが幸せな「むら」

保育所	小学校	南阿蘇中学校
①はくすい保育園 ②くぎの保育園 ③ちょうよう保育園	①白水小学校 ②久木野小学校 ③南阿蘇西小学校	2016年4月に「白水中学校」、「久木野中学校」、「長陽中学校」の3校が統合して開校した南阿蘇村唯一の中学校です。「南阿蘇中でよかった」の実現に向けて日々生徒と職員が向き合っています。



子育て支援センター
子育て支援センター（通称：わくわくひろば）は、就学前のお子さんを持つ保護者や子育てをサポートする方々の集いの場です。季節の行事や誕生会などの行事を通し、子育て情報収集や交流の場になっています。

のびのび、すくすく育つ子どもたち

南阿蘇村の子育て支援は、不妊不育治療、妊婦相談など赤ちゃん誕生前から始まり、誕生後は乳幼児健診や家庭訪問などを行っています。

保育サービスにおいては、多様化する子育てニーズへ対応するため、延長保育や一時保育を実施。学童期においては、放課後児童クラブを開設し就労世帯の支援を行っています。

また、経済面では「0歳から高校生までの医療費助成」「出産・成長祝い金の支給」「ランドセル・中学生カバンの贈呈」「小中学生の給食費の半額助成」をはじめ、成長に応じて子育て世帯を支えています。

今後も南阿蘇村の豊かな自然環境のなかで安心して子育てができるよう取り組んでいきます。

体験し学べる「むら」

最先端の教育と様々な体験

カルデラの内側に人が住み、生活を営んでいる世界的にも珍しいこの村では、トレッキングや乗馬体験など、大自然を活かした多くのアクティビティ体験をすることができ、食の豊かな村として、野菜の収穫や果物狩り、そば打ちなどを楽しむことができます。

また、南阿蘇村では国が示す「GIGAスクール構想」に伴い、2020年度に児童・生徒に一人一台のタブレットPCを配備、高速大容量のネットワーク通信環境整備、電子黒板導入などを行い、さらにタブレットドリルなどの電子教材を導入し、ICTを活用した学習環境整備が充実しています。



守り受け継ぐ「むら」

伝統を受け継ぐ力

南阿蘇村には先人から受け継がれている有形・無形の文化財が数多く存在します。その多くが農耕にまつわるもので、南阿蘇村の暮らしにおいて、農耕がいかに重要な位置づけであったかがうかがえます。

村では縄文～古代の古墳・遺跡をはじめ、五穀豊穡を願う多くの神社が存在します。なかでも長野阿蘇神社では、文化庁選択無形文化財などの指定を受け、300年以上続く伝統のある長野岩戸神楽が代々脈々と受け継がれており、南阿蘇村の伝統における絆の深さを物語っています。

また、文学碑や記念碑も多く、南阿蘇村が時代の狭間で重要な役割を果たしてきたことがうかがえます。村では教育現場や祭事、資料館や美術館などを通して様々な形で歴史、伝統文化、芸術に触れることで、子へ孫へと貴重な時代の宝を後世に受け継いでいます。



高齢者が幸せな「むら」

イキイキと活躍する高齢者

住民の約4割が65歳以上の高齢者である南阿蘇村では、高齢者になっても自分らしく輝くことのできる村を目指して、様々な活動を行っています。

「南阿蘇村老人クラブ連合会」では、老人クラブ会員の団結と親睦を図り、生きがいづくりや健康づくり、友愛訪問や奉仕活動などの多彩な活動をし、地域からも必要とされる組織として活動しています。

他にも「転ばぬ先の杖の会」では、いつまでも元気で過ごし、要介護状態や認知症にならないために、学習療法、レクリエーション、運動、音楽などの介護（認知症）予防に取り組んでいます。



安全

安全な暮らしを守るために

南阿蘇村では、安心安全な暮らしができる村を目指し、防災・防犯対策に力を入れています。防犯パトロール隊は地域の安全を守るため、金融機関や通学路の見守り、村内の夜間パトロールを定期的実施しています。交通指導員は、村民を交通事故から守るため、交通安全キャンペーンや街頭指導を通して、交通安全啓発を行っています。

また、南阿蘇村消防団は、女性団員や消防団OBによる機能別団員を採用することで組織を強化。女性ならではの防災・防火活動や、村外勤務者の多い昼間の火災に対応できるなど、細かい対応ができる組織になりました。さらに、消防バイク隊の設置や、デジタル無線機の導入など高性能の資機材も配備することで、住民の「生命」、「身体」、「財産」を守るために、日々の活動に邁進しています。

また、熊本地震後は各地区の自主防災組織の活動が活発化しています。災害から命を守るためには「自助」、「共助」が大切であることを認識し、各地区で安否確認の方法や避難方法などの協議を進め、防災講話や防災訓練を行うなど、住民と行政の協働による防災体制の構築を目指しています。



安心

安心な暮らしを求めて

2016年4月の熊本地震により、南阿蘇村では多くのインフラが破壊されました。阿蘇大橋、阿蘇長陽大橋、依山トンネル、南阿蘇鉄道など南阿蘇村の主要幹線道路、鉄道などの交通アクセスが寸断されるとともに、上水道や多数の家屋の全半壊など甚大な被害をもたらす事態となりました。

しかし国や県、全国の皆さまの支援により、2016年12月に依山トンネル開通、2017年8月には長陽大橋、2021年3月には新阿蘇大橋が開通しました。その他にも水道設備の復旧や災害公営住宅の整備などで住民の皆さまが安心して暮らせるよう、生活基盤の早期復旧に取り組みました。

また南阿蘇鉄道についても一部運行を開始していますが、令和5年夏季頃を予定している全線復旧に向け取り組んでいるところです。

これからは、震災の甚大な被害を受けた村として、その痛みを教訓に、地震被害の恐ろしさと村が創造的復興を果たした姿を村内外に伝え、後世に残すべく震災遺構の整備などの事業に取り組むとともに、防災教育を推進してまいります。



行政

村民中心の行政運営

南阿蘇村は村民との対話を大切に、住民と行政が信頼し合い、協働によるむらづくりを行うために、住民がむらづくりへ参画できる仕組みづくりを推進しています。

庁舎には出張村長室が、役場玄関ロビーのすぐ横に設置され、住民が直接、村長に相談することができます。また、広報やホームページ、村公式LINEなどを通して村の施策や行政サービス、イベントを紹介し、村民に広く村の情報を発信しています。活力があり、のどかで穏やかな環境に包まれた地として、住みたい、住み続けたい「むら」南阿蘇を目指しています。



2021年4月に図書室や子育て支援スペースなどを備える南阿蘇村複合施設LOOPみなみあそがオープンしました。南阿蘇村の文化の発展と次世代教育の場として日々多くの利用者が訪れています。

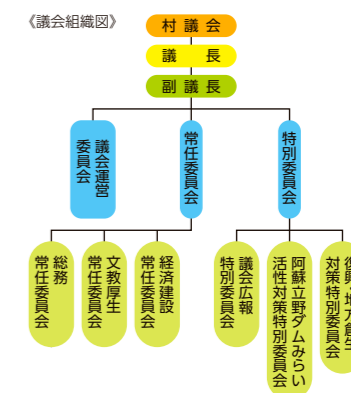
議会

議会について

村議会は、選挙によって選ばれた議員で構成され、南阿蘇村の主要な意思を決定する議決機関です。

南阿蘇村では、14人の議員によって議会が構成されています。年4回(3月、6月、9月、12月)の定例会と必要に応じて臨時会が開かれます。ここで、村民の声が行政に届けられ、条例や予算、重要な案件の決定や、村政が適正に行われているかを審議しています。

また、定例会後には議会を身近に感じていただくために「議会広報すいげん」を発行しています。



熊本地震

2016年4月

14日 午後9時26分 (村の震度5弱)

16日 午前1時25分 (村の震度6強)

1) 人的被害

死亡者	31名 (関連死15名含む)
重傷者	31名
軽傷者	120名

2) 家屋被害 (罹災証明発行数より)

全壊	699棟
大規模半壊	187棟
半壊	802棟
一部損壊	1,173棟
計	2,861棟



村の概要

南阿蘇村役場の位置
北緯32度50分42秒
東経131度1分39秒
海拔385.4m
面積137.30km²
(境界未定部あり)



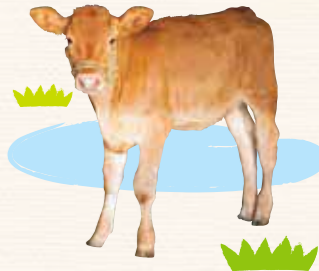
2005年に阿蘇郡白水村、久木野村、長陽村が合併し、南阿蘇村は誕生しました。平成の大合併で初めて「村」を新設した自治体です。

南阿蘇村は、阿蘇カルデラの南部、阿蘇五岳と外輪山に囲まれた南郷谷に位置します。中央を東から西へと流れる白川の両側には、住宅地、商業地、耕地が広がり、展望性のある田園風景となっています。標高600m以上は、その大部分を山林、原野で占め、北は阿蘇山上、草千里、火口原を結び線で区切られています。西の立野火口瀨近くが阿蘇外輪山の切れ目でカルデラの入口となっており、ここで白川が阿蘇谷を北から流れてくる黒川と合流し、熊本平野へと下っていきます。南は南外輪山分水嶺の北の傾斜地で西部依山一帯の高原地域までおよび、低地は東の水源地域から西へと約300mの標高差があります。

昼夜の寒暖差や年間雨量平均約2,300ミリという恵まれた気候から、良質な農作物が生産されています。また、一級河川「白川」の水源地である「白川水源」をはじめとする多数の水源地があり、「水の生まれる郷」として知られ、多くの観光客を集めます。このように、南阿蘇村は農業と観光の村です。

人口と世帯数 (南阿蘇村住民基本台帳人口より)

年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
人口	男	5,597	5,569	5,274	5,164	5,051	5,016	5,014
	女	6,104	6,050	5,715	5,560	5,462	5,371	5,311
	計	11,701	11,619	10,989	10,724	10,513	10,387	10,325
世帯数		4,718	4,744	4,522	4,479	4,493	4,563	4,627
転入者数		464	482	326	360	556	602	398
転出者数		474	479	830	512	693	615	331
出生数		75	72	55	48	73	34	58
死亡者数		173	159	180	159	147	155	147
65歳以上人口		4,042	4,127	4,095	4,156	4,234	4,277	4,348
高齢化率(%)		34.54	35.52	37.26	38.70	40.27	41.17	42.11



2021年 令和3年	2020年 令和2年	2019年 令和元年	2017年 平成29年	2016年 平成28年	2015年 平成27年	2014年 平成26年	2012年 平成24年	2011年 平成23年	2010年 平成22年	2009年 平成21年	2008年 平成20年	2006年 平成18年	2005年 平成17年
5月6日	4月23日	4月1日	3月7日	10月3日	8月8日	1月25日	12月1日	9月14日	7月23日	2月15日	10月31日	8月27日	4月16日
南阿蘇村で東京2020五輪聖火リレーが開催	南阿蘇村複合施設LOOPみなみあそ内南阿蘇村図書室がオープン	南阿蘇村小学校が開校 中松、白水、両併小学校が統合して、白水小学校が開校	新阿蘇大橋開通 国道325号阿蘇大橋ルート、	国道57号現道部開通	JR豊肥本線全線開通	高野台防災公園が完成	第1回みなみあそ復興マラソン大会開催	県道28号依山トンネルルート全線開通	上天草市と包括連携協定を締結	県道28号依山トンネルルート	立野地区長期避難解除	村内初の災害公営住宅である下西原第1団地の落成式開催	上天然草市と包括連携協定を締結
南阿蘇村が誕生	南阿蘇村誕生記念式典	新上五島町姉妹町村提携調印式	村歌「大地の讃歌」完成	「村木」「村花」「村鳥」	「村民のチョウ」制定	東海大学阿蘇キャンパスと「地域総合交流に関する協定」締結	「南阿蘇村湧水群」が「平成の名水百選」として選出される	「南阿蘇桜公園」記念碑除幕式	「村地産地消」かなばあちゃん」お披露目式	消防団女性分団華やかに誕生	長陽・立野、長陽西部小学校が統合して、南阿蘇西小学校開校	九州北部豪雨	阿蘇地域が世界ジオパーク加盟認定
南阿蘇村合併10周年記念式典	みなみあそコミュニティセンター(Montebel)南阿蘇店オープン	長陽西部・立野・長陽保育所が統合して、ちようよう保育園開園	道の駅「あそ望の郷くぎ」登録	白水・久木野・長陽中学校が統合して、南阿蘇中学校が開校	熊本地震(前震) 午後9時26分(村の震度5弱)	熊本地震(本震) 午前1時25分(村の震度6強)	南阿蘇鉄道部分運行(中松～高森)開始	南阿蘇村新庁舎落成式	熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式	長陽大橋ルート(心急復旧)開通	立野地区長期避難解除	村内初の災害公営住宅である下西原第1団地の落成式開催	上天草市と包括連携協定を締結

村のあゆみ

期 日 内 容